

# 仙台市水道事業進捗管理にかかる基礎データ

(令和5年度末現在)

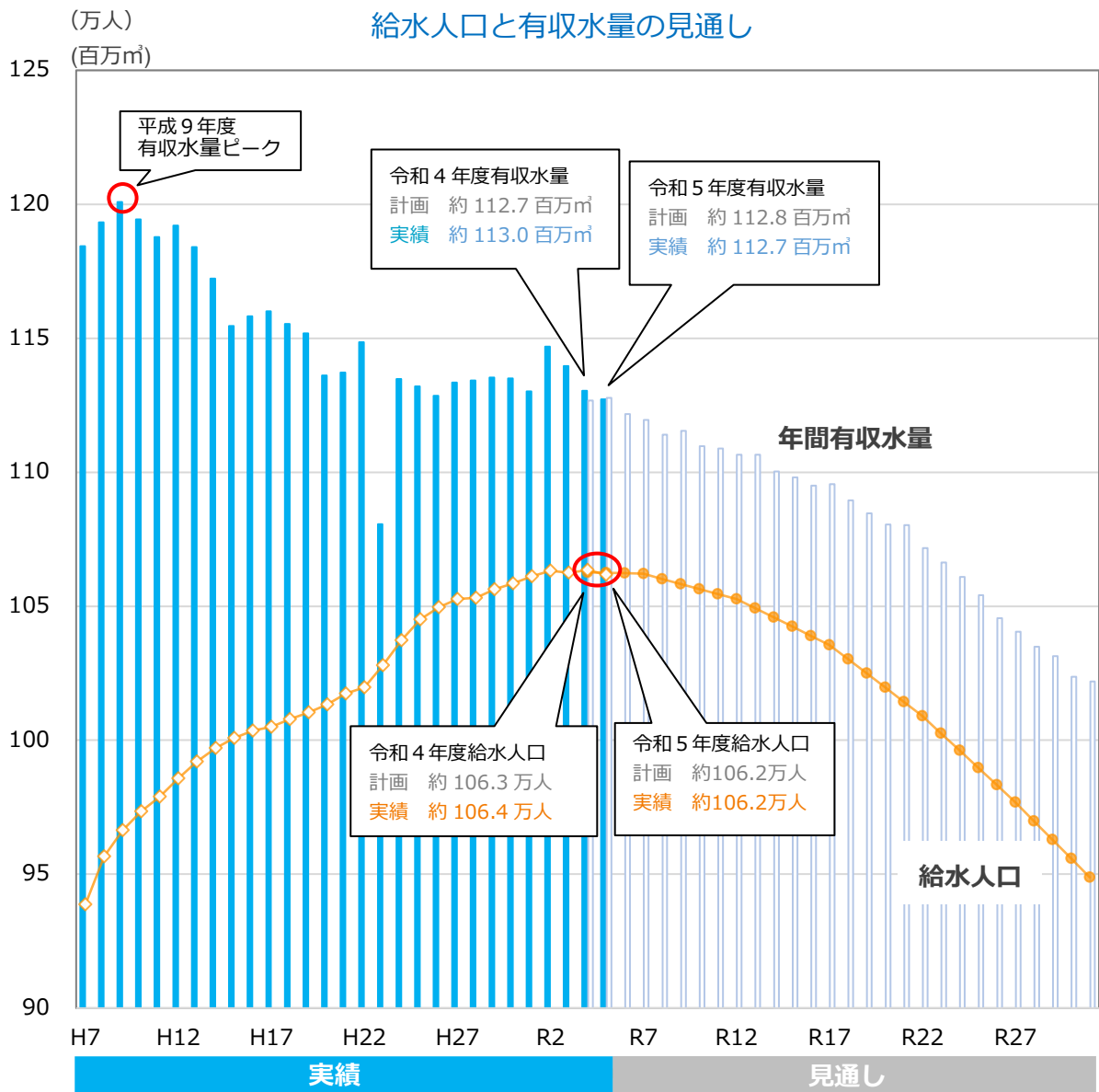
令和6年12月  
仙台市水道局

# 目 次

1. 長期的な水需要の現況 .....	1
2. 水道施設の現況 .....	4
3. 組織・人材の現況 .....	5
4. 財源の現況 .....	6

# 1. 長期的な水需要の現況

- 給水人口については、仙台市水道事業基本計画（以下「基本計画」という。）では、ピークを令和2年度に見込んでおりましたが、本市が公表した将来人口推計では、令和10年に人口のピークを迎えると推計されていることから、これと連動する形で、給水人口のピークも後ろ倒しになる見通しです。
- 令和5年度の給水人口については、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響で死亡数が出生数を上回る自然減が拡大したこと等により、過去最大値を更新した令和4年度と比べ減少しました。
- 有収水量については、平成9年度以降、長期的な減少傾向が続いています。令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後、外出自粛の制限が無くなったこと等により生活用水量が減少したため、令和4年度と比べ減少しました。



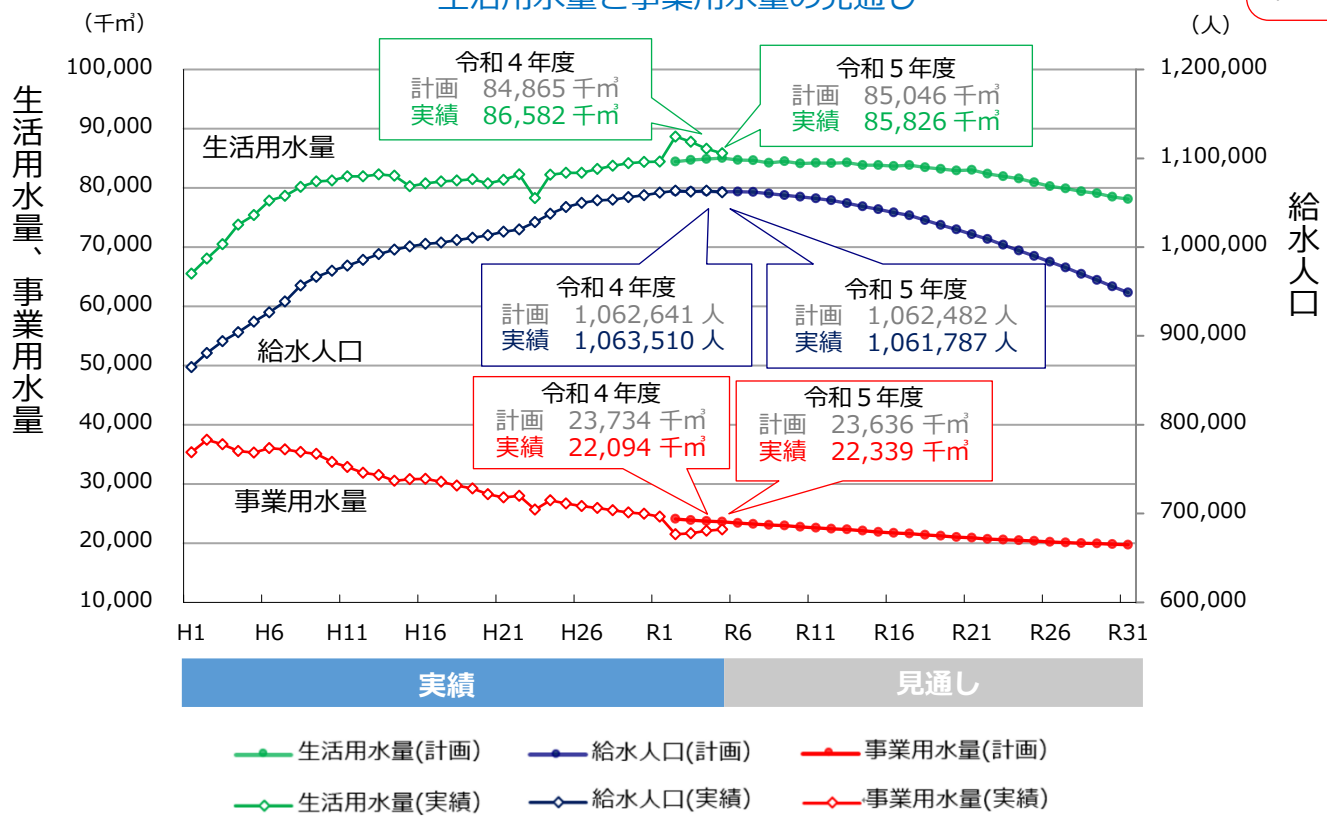
- 有収水量の大部分を占める料金水量のうち生活用水量については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、在宅勤務や外出自粛による在宅時間の増加等により増加し、令和2年度については、対コロナ禍前の令和元年度比で105.0%となりました。その後は、在宅時間の減少等により、生活用水量の一時的な増加は緩和傾向にあり、令和5年度の生活用水量については、令和元年度比で101.6%となっており、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。
- 一方、事業用水量（生活用以外の水量）については、移動自粛による旅行客の減少や飲食店等の時短営業の影響等により減少し、令和2年度については、令和元年度比で87.8%となりました。その後は、市民活動や経済活動が徐々に回復する動きとなっておりますが、令和5年度の事業用水量については、令和元年度比で91.3%となっており、生活用水量と比べコロナ禍前への戻りが鈍い状況となっております。

給水人口・料金水量のコロナ禍前との比較 (単位：人、m<sup>3</sup>)

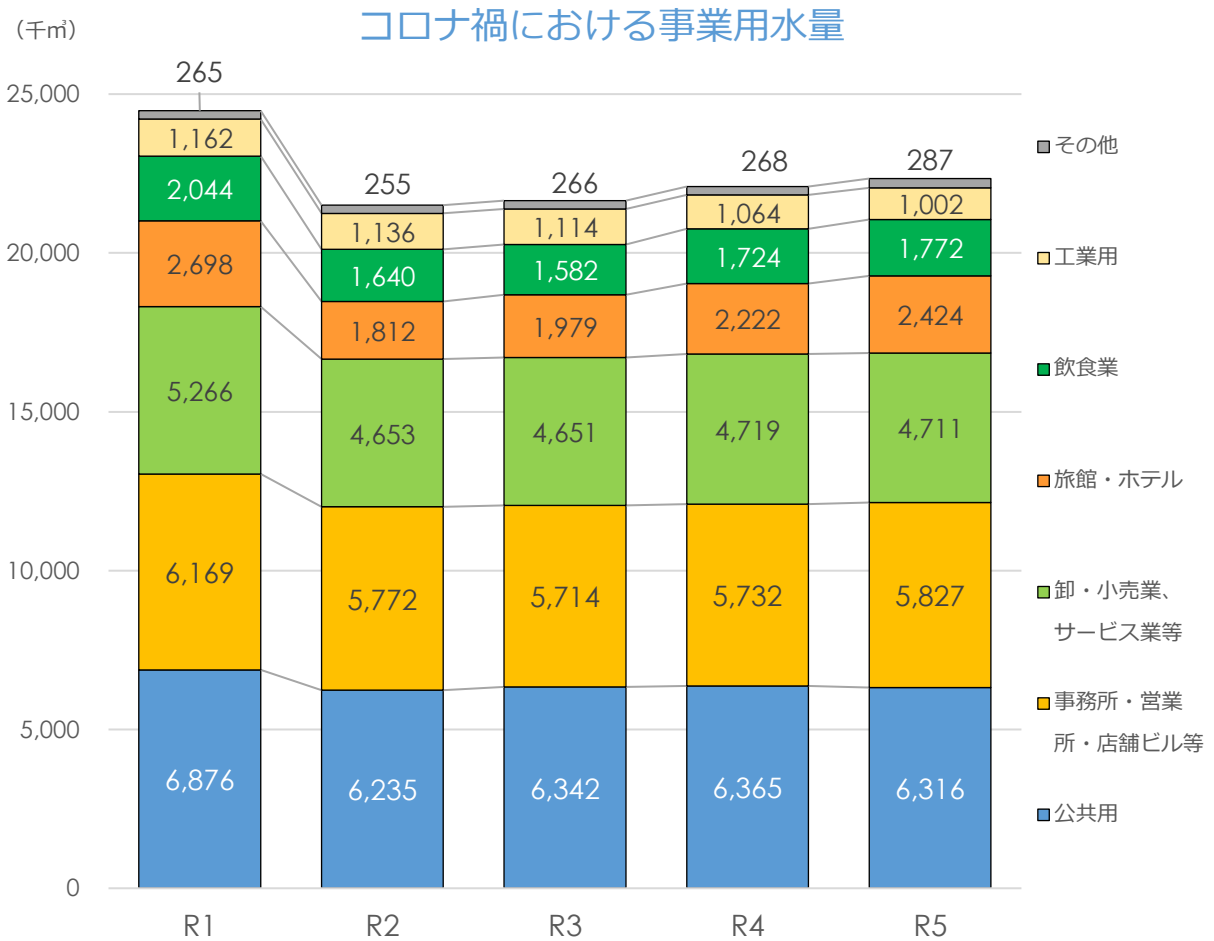
		令和元年度 (A)	令和2年度 (B)	令和3年度 (C)	令和4年度 (D)	令和5年度 (E)	コロナ禍前との比較			
							令和2年度 (B÷A)	令和3年度 (C÷A)	令和4年度 (D÷A)	令和5年度 (E÷A)
給水人口		1,061,155	1,063,272	1,062,506	1,063,510	1,061,787	100.2%	100.1%	100.2%	100.1%
料金水量	生活用水量	84,434,695	88,679,144	87,789,160	86,582,130	85,825,821	105.0%	104.0%	102.5%	101.6%
	事業用水量	24,480,451	21,502,615	21,648,493	22,093,546	22,338,665	87.8%	88.4%	90.2%	91.3%

横ばい  
増加が緩和  
一時的な  
コロナ禍前の  
水準への  
戻りが鈍い

生活用水量と事業用水量の見通し



- 水道メーターの口径が大きく、料金単価が高い傾向にある事業用水量については、ほぼ全ての業種においてコロナ禍前の水準に戻っていない状況となっています。
- 令和5年度においては、旅館・ホテル、飲食業は観光客の持ち直し等により増加しましたが、「公共用」「事務所・営業所・店舗ビル等」「卸・小売業、サービス業等」は横ばいとなっており、事業用水量全体では、コロナ禍前への回帰傾向が弱まっています。



業種	R1~R2 増減 /R1	R2~R3 増減 /R1	R3~R4 増減 /R1	R4~R5 増減 /R1	R5/R1
その他	-4.1%	4.6%	0.4%	7.1%	108.0%
工業用	-2.2%	-1.9%	-4.2%	-5.4%	86.3%
飲食業	-19.8%	-2.8%	6.9%	2.4%	86.7%
旅館・ホテル	-32.9%	6.2%	9.0%	7.5%	89.8%
卸・小売業、サービス業等	-11.6%	0.0%	1.3%	-0.2%	89.5%
事務所・営業所・店舗ビル等	-6.4%	-0.9%	0.3%	1.5%	94.5%
公共用	-9.3%	1.5%	0.3%	-0.6%	91.9%
<b>事業用水量</b>	<b>-12.2%</b>	<b>0.6%</b>	<b>1.8%</b>	<b>1.1%</b>	<b>91.3%</b>

工業用は  
コロナ禍前  
から減少傾向  
継続

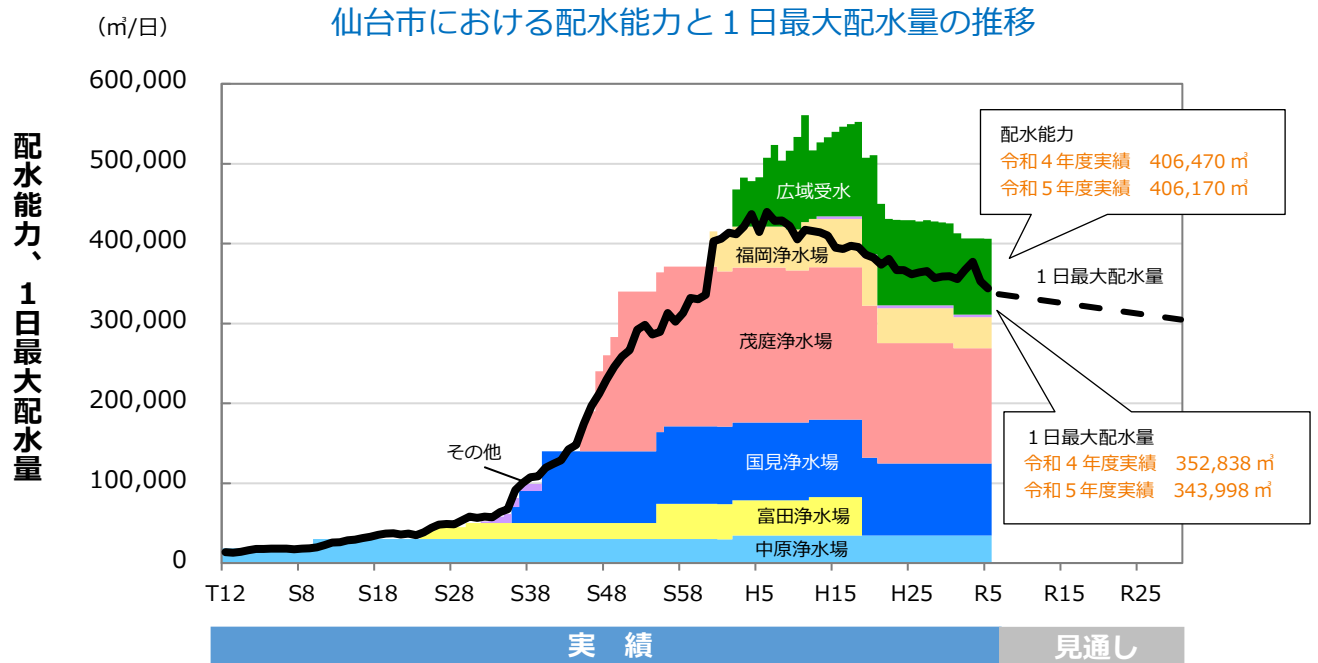
飲食業、  
旅館・ホテル  
の持ち直し  
により回帰  
傾向

横ばい

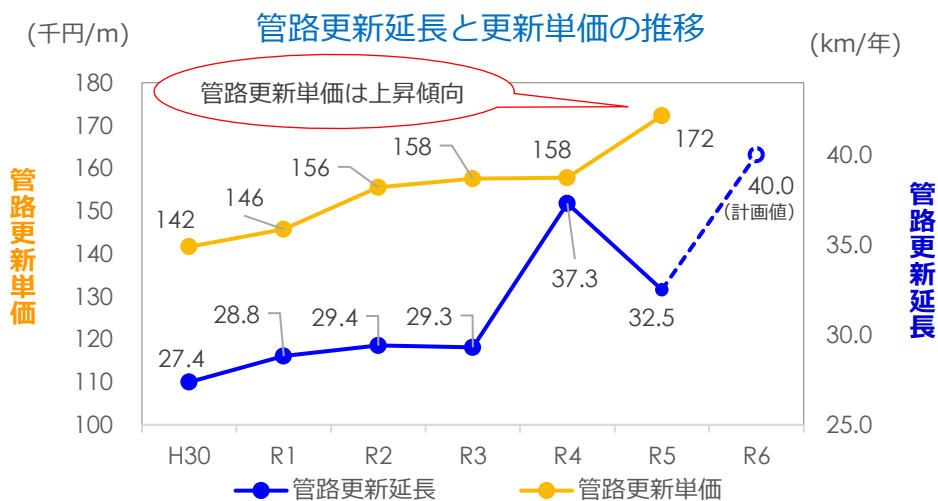
## 2. 水道施設の現況

参照先 基本計画 P.12-13

- 令和5年度の1日最大配水量については、令和5年8月3日に年度最大配水量を記録（34万3,998 m<sup>3</sup>）し、令和4年度と比べ減少しました。



- 管路更新延長については、基本計画に基づき、ペースアップを図りながら更新を進めており、事業費は増加していく見込みです。
- 一方、管路更新単価については、資材等の高騰により上昇傾向にあります。

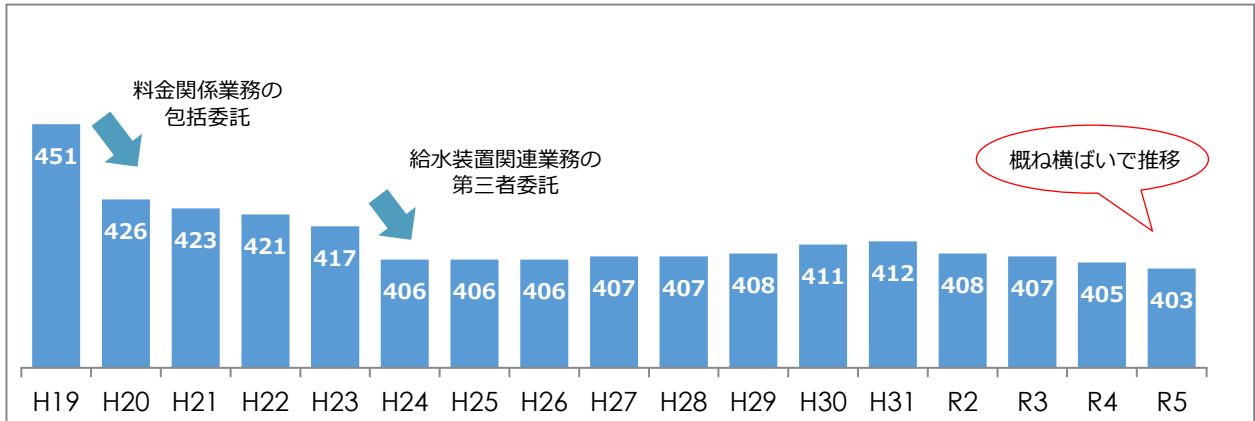


### 3. 組織・人材の現況

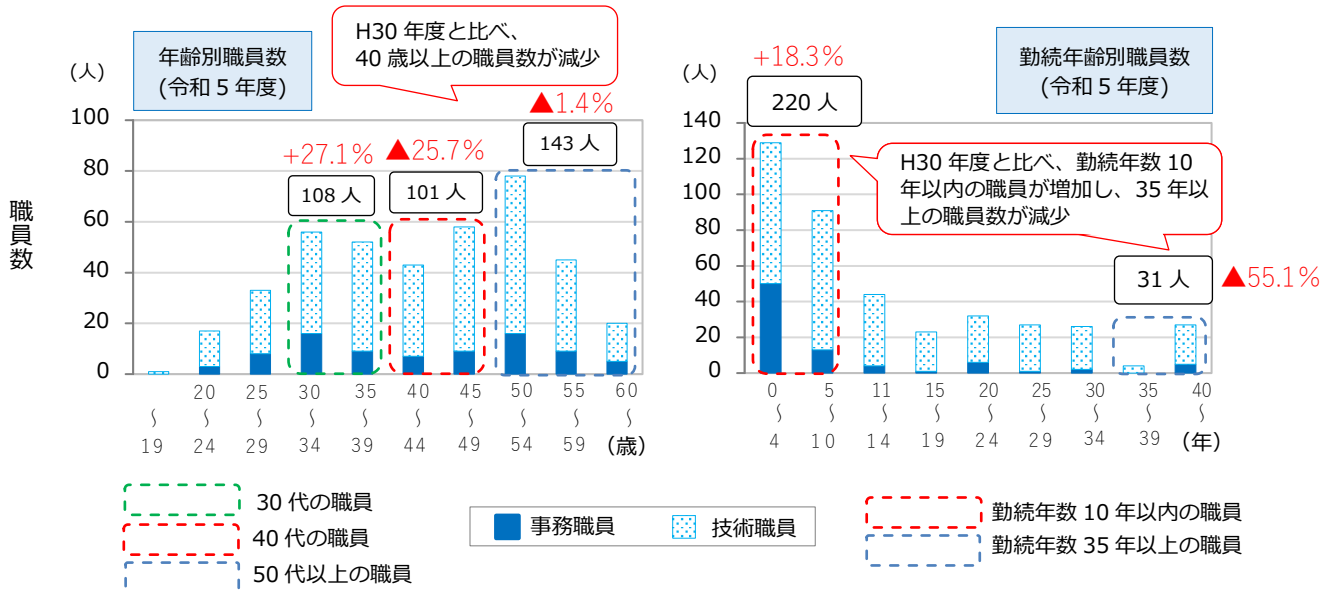
- 水道局職員数は概ね横ばいですが、年齢別職員数については、基本計画策定時と比べ、30代の職員数が増加する一方で、40歳以上の職員数が減少しています。
- また、勤続年数別の職員数については、勤続10年未満の職員数が増加する一方で、勤続35年以上の職員数が減少しています。

(人)

水道局職員数の推移



水道局職員の年齢構成・勤続年数



## 4. 財源の現況

参照先 基本計画 P.15-16

### 財政収支計画（計画策定時）

（単位：億円）（税込）

区分		年度									
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
収益的 収支	収益的収入	304	301	302	301	298	297	295	296	295	293
	うち水道料金収入	253	253	253	253	252	251	250	250	249	249
	収益的支出	278	253	250	254	252	250	252	256	254	256
	うち人件費	38	32	31	32	32	30	30	31	31	31
	うち受水費	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	うち減価償却費等	87	90	90	93	91	92	94	99	97	99
	うち支払利息	8	7	7	6	5	5	5	5	5	5
	当年度純損益（税抜）	19	38	39	36	35	35	30	27	27	24
資本的 収支	資本的収入	54	43	55	59	55	52	64	63	70	67
	うち企業債	34	34	46	47	46	46	59	58	66	63
	資本的支出	190	159	188	184	175	179	196	193	196	186
	うち建設改良費	127	99	129	125	120	125	145	146	151	142
	うち企業債償還金	63	60	59	59	55	53	51	47	45	44
	補てん財源（税抜）	203	186	195	182	178	178	171	159	151	143
運営資金残高（税抜）		67	70	61	58	57	52	40	29	25	25
企業債残高		622	596	583	572	562	556	564	575	596	615

※現在、中期経営計画（令和7年度～令和11年度）の策定を進めており、計画策定後、令和7年度以降の財政収支計画については、最新の数値に変更となる予定です。

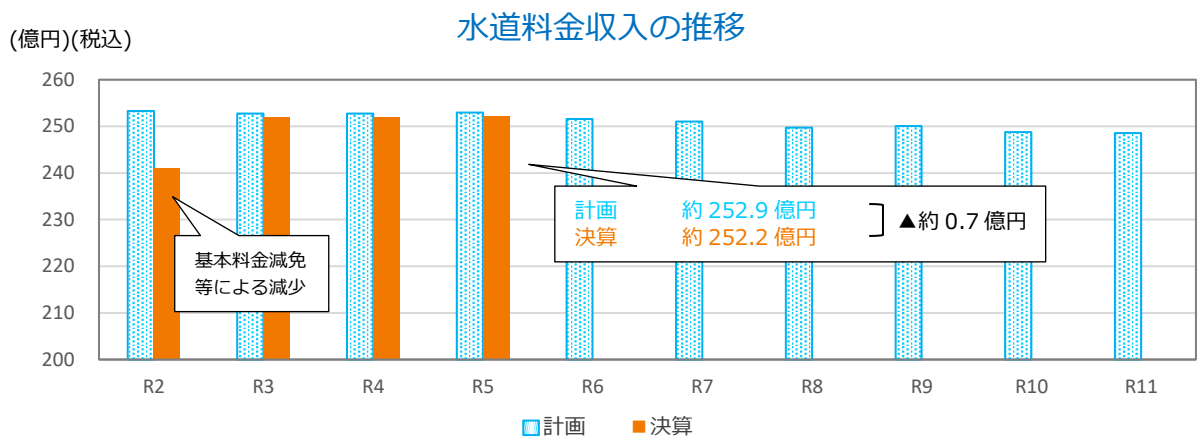
### 決算の状況（令和5年度時点）

（単位：億円）（税込）

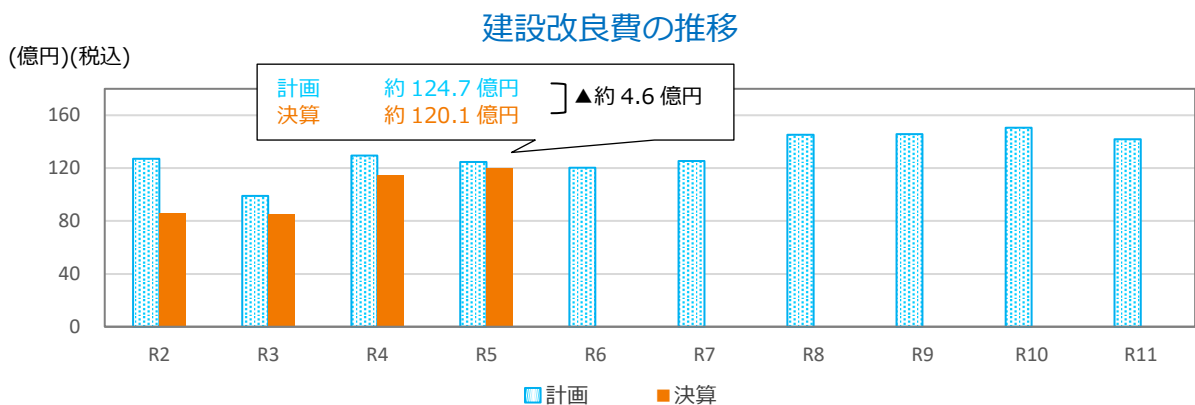
区分		年度									
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
収益的 収支	収益的収入	290	301	302	303						
	うち水道料金収入	241	252	252	252						
	収益的支出	255	250	252	251						
	うち人件費	32	30	31	31						
	うち受水費	49	49	49	49						
	うち減価償却費等	85	83	85	85						
	うち支払利息	8	7	6	6						
	当年度純損益（税抜）	28	43	40	42						
資本的 収支	資本的収入	47	41	43	49						
	うち企業債	27	27	34	35						
	資本的支出	148	145	173	178						
	うち建設改良費	86	85	114	120						
うち企業債償還金	62	60	59	58							
補てん財源（税抜）		209	219	239	221						
運営資金残高（税抜）		109	115	109	92						
企業債残高		597	565	540	516						



■水道料金収入については、令和2年度において、新型コロナウイルス感染症が本市経済に影響を及ぼしている状況を踏まえ、市民生活や経済活動を支えていくための支援策として、基本料金の減免を行ったこと等により計画値を下回りましたが、令和3年度以降はほぼ計画値通りとなっています。



■建設改良費については、令和2年度以降、請負差額等により計画値を下回っており、令和5年度についても計画値と比較して約4億6千万円減少しましたが、労務単価や物価上昇等の影響により、計画値との差が徐々に減少しています。



■運営資金残高については、過年度からの累積となりますが、令和2年度末の時点で事業精査等により建設改良事業の実績が計画値を下回ったことや、各年度で計画値を上回る純利益を確保できたこと等の積み上げにより、計画値と比較し、約34億2千万円多く確保する結果となりました。

